

耐倒伏性に優れた夏播き用極早生えん麦品種「たちいぶき」の育成

桂 真昭・松浦正宏・長谷 健¹⁾・上山泰史²⁾・大山一夫
(九州農業試験場・¹⁾ 現：鹿児島県農業試験場大隅支場・²⁾ 現：茨城県畜産センター)

Masaaki KATSURA, Masahiro MATSU-URA, Takeshi NAGATANI, Yasufumi UHEYAMA and Kazuo OYAMA :
A New Early Forage Oat Variety 'Tachiibuki'

えん麦は、冬作の飼料作物としてイタリアンライグラスに次いで広く栽培されており、9,220 ha (1997年)の栽培面積がある。主要な栽培地域は全国の68%を占める九州で、特に鹿児島および宮崎両県での栽培面積が大きい。1980年以降、極早生品種を8月末または9月上旬に播種して年内に出穂させて収穫する夏播き栽培が紹介され、温暖地・暖地で急速に広がった。夏播きえん麦は、飼料用トウモロコシや早期水稻等の後作として、8月下旬から12月末までの期間、耕地を有効に活用できる優良な飼料作物の一つとして位置づけられる。現在までに夏播き用の公的品種として1989年に北海道農試で「アキワセ」、1996年に九州農試で「はえいぶき」が育成され、それ以外にも各種苗会社から数品種が販売されている。しかし、既存品種は耐病性や耐倒伏性が不十分であり、それらの点を改良した品種が望まれている。そこで、耐倒伏性、冠さび病抵抗性が優れた極早生品種の育成を目指した。ここでは、2000年に農林命名登録された九州農試育成の「たちいぶき」について、その育成経過や特性の概要を報告する。なお、本品種の育成に関して、ご協力いただいた関係機関各位に深く謝意を表す。

1. 育成経過

1991年に夏播きでの秋の出穂が早い Diamante R-31 を種子親、冠さび病抵抗性と耐倒伏性に優れた Coker 87-9 を花粉親として交配し、F₃世代以降に個体選抜および系統選抜を行う集団育種法によって固定を行った。選抜は冠さび病抵抗性と耐倒伏性に重点をおいて行った。1996年に F₆世代で系統適応性および特性検定試験に供試した。2000年における世代は F₁₀世代である。本品種の旧系統名は「九州5号」であり、2000年10月にえん麦農林10号「たちいぶき」として農林命名登録された。



写真1 新品種「たちいぶき」の草姿 (1999年11月19日撮影)

2. 特性の概要

第1表に夏播き栽培での「たちいぶき」の生育特性を示した。夏播き栽培での秋の出穂は極早生に属するもの

の、「はえいぶき」や「スーパーハヤテ隼」より平均で7日程度遅い。第2表に示すように、栽培期間中の倒伏程度は「はえいぶき」や「スーパーハヤテ隼」より明らかに小さく、耐倒伏性に優れる。冠さび病罹病程度も、「はえいぶき」や「スーパーハヤテ隼」より明らかに小さく、冠さび病抵抗性は極強と判定された。一方、葉枯れ病罹病程度は「はえいぶき」並みであり、抵抗性は獲得していない。収穫時の乾物率は、「はえいぶき」や「スーパーハヤテ隼」と同程度である(第1表)。乾物収量は「はえいぶき」と同程度であるが、「スーパーハヤテ隼」より低い(第3表)。採種用の秋播き栽培での春の出穂および成熟期は「はえいぶき」と同程度で、暖地で梅雨入り前に採種できる。採種量は「はえいぶき」並みである(第3表)。

第1表 夏播き栽培での「たちいぶき」の生育特性と採種量

特性	たちいぶき	はえいぶき	スーパーハヤテ隼	備考
出穂始(月,日)	10.30	10.24	10.23	3場所 ^{a)} 、4年間の平均
発芽良否 ^{a)}	2.0	1.4	2.0	3場所 ^{b)} 、4年間の平均
初期生育 ^{a)}	1.8	1.8	1.7	3場所 ^{b)} 、4年間の平均
草丈(cm)	113	115	126	3場所 ^{b)} 、4年間の平均
基部稈径(mm)	3.2	3.4	3.0	九州農試、1998年条播
乾物率(%)	20.7	20.6	20.6	3場所 ^{b)} 、4年間の平均
乾物比重割合(%)	17.4	17.1	19.7	3場所 ^{b)} 、4年間の平均
乾物分解率(%)	38.1	39.3	40.5	試料は九州農試系適、1996,1997年の平均
粗蛋白質含有率(%)	9.9	8.9	9.7	試料は九州農試系適、1996,1997年の平均
採種量(kg/a)	32.2	31.2	33.9	九州農試3年間の平均

注) ^{a)} 発芽良否、初期生育は評点、1良～5不良

^{b)} 九州農試、宮崎畜試、山口農試

第2表 「たちいぶき」の病害および倒伏の発生程度

特性	たちいぶき	はえいぶき	スーパーハヤテ隼	備考
倒伏程度 ^{a)} (条播)	1.6	2.5	3.0	3場所 ^{b)} 、4年間11回発生の平均
倒伏程度 ^{a)} (散播)	0.7	2.7	3.6	九州農試2年間、播種量3水準の平均
冠さび病罹病程度 ^{a)}	0.5	2.4	2.1	2場所 ^{c)} 、4年間5回発生の平均
冠さび病抵抗性	極強	強	中	宮崎畜試特性検定試験3年間の平均
葉枯れ病罹病程度	2.9	3.1	2.2	宮崎畜試3年間4回発生の平均

注) ^{a)} 倒伏程度、罹病程度は評点、0無～5甚

^{b)} 九州農試、宮崎畜試、山口農試

^{c)} 宮崎畜試、山口農試

第3表 夏播き栽培での乾物収量と採種量

	乾物収量 ^{a)} (kg/a)			
	宮崎	熊本	山口	平均
たちいぶき	72.0	62.8	60.5	65.1 (98)
はえいぶき	74.4	64.4	60.1	66.3 (100)
スーパーハヤテ隼	80.2	60.0	65.7	68.6 (103)

注) ^{a)} ()内は「はえいぶき」を100とする指数、宮崎、熊本は4年間、山口は3年間の平均

3. 栽培適地および栽培・利用上の注意

九州、瀬戸内海地域等の温暖地での夏播き栽培に適する。夏播きでの秋の出穂がやや遅いので、適期内に早播きする必要がある。南九州では9月上・中旬に播種する。